

関西支部活動の活性化に向けて

一般社団法人 日本計画行政学会 関西支部 支部長
高田 剛司

関西支部長 2 期目を務めるにあたり、1 期目で感じてきた支部活動の課題をこの 2 年間で少しずつ解決し、より多くの会員が参加の意義を見出すことのできる支部活動にしたいと考えている。

その一つとして、これまで長年続けてきた「関西支部研究大会」を発展的に解消する方向に舵を切った。2020 年度からのコロナ禍を経て、昨年度（2023 年 11 月）ようやく対面での支部研究大会が再開され、対面での開催意義を再確認したばかりで何故？という疑問が浮かぶであろう。過去、企画・運営を担ってきた中で、支部研究大会の企画や準備に係る担当者への負担、当日の参加状況などを総合的に勘案すると、従来と同じではなく、会員のためのより良い研究交流のあり方を模索すべきではないかとの思いが強かったからである。今年度に掲げた事業計画では年 1 回の支部研究大会の発展的解消を打ち出し、関西支部の理事・幹事のみなさんからも賛同いただき、「年 4 回程度」の「オンライン」による「関西支部研究例会」へ移行した。

研究例会は、支部会員が自己紹介を兼ねて、現在の研究の進捗状況や実践報告などを気軽に報告していただくため、報告時間を 20 分、質疑応答を 10 分、計 30 分という時間に設定した。また、コロナ禍から利用が広がり、いまではすっかり定着したオンライン会議ツールを使い、どこからでも参加できるようにした。開催曜日と時間は平日の夜にすることで、仕事後・夕食後の時間を利用して、できるだけ参加のハードルを低くすることを意識した。その結果、関西支部の理事会・幹事会開催前の 20 時から、1 回あたり最大 2 本（1 時間まで）という進め方が現時点で定例になってきた。関西支部理事・幹事への依頼やメールで発表者を広く募集することで今年度は計 4 回の研究例会に 5 名の発表が行われた。

開催の概略は次のとおりである。

□第 1 回研究例会（2024 年 5 月 14 日）

「国際起業家誘致政策の成功要因と今後の展望－福岡市グローバル創業・雇用創出特区の事例研究－」
発表者：藤原直樹氏（追手門学院大学）

□第 2 回研究例会（2024 年 9 月 20 日）

「地方公共団体における銀行等引受債金利とリレー・シヨニシツに関する分析」
発表者：藤木秀明氏（日本大学）

□第 3 回研究例会（2024 年 11 月 18 日）

「新しい公のプレイヤーの拡大に向けて－企業ボランティアの促進要因と課題－」
発表者：石田祐氏（関西学院大学）

□第 4 回研究例会（2025 年 3 月 3 日）

①「人と水の関わりを記録し、記録を活用する－取り組みと課題－」

発表者：熊澤輝一氏（大阪経済大学）

②「新たな中小企業政策エコノミック・ガーデニングの現在地」

発表者：梅村仁氏（高崎商科大学）

計画行政学会らしく、バラエティに富んだテーマの発表でいずれも興味深い話題を提供していただくことができた。一人当たりの持ち時間が 30 分と短いものの、逆にもう少し聞きたい、質問したいと思えるぐらい、次の個別の意見交換のきっかけになるのではと期待している。したがって、次年度もしばらくはこの形式で継続し、発表者や参加者の意見も伺いながら、時間配分や時間帯など柔軟な運営方法を採用していく予定である。

なお、この「関西支部年報」にも研究例会での発表概要について、発表者から寄稿いただいているので是非ご一読いただきたい。

研究例会だけでなく、2024 年度の支部活動では、実例講座は視察に加えて座学の回を復活し、研修委員会によって多彩な内容を企画していただいた。それにより対面型の交流もこれまで以上に活発に行うことができた。今後さらに関西支部活動を活性化していくためには、現会員がつながる企画を増やしていくとともに、そこから新規の会員が増えるようなことにも展開できればと思う。